

1. 人口の現状分析

(1) 人口動向分析

- 1995年をピークに減少に転じ、2020年は189,680人と、25年間で28,176人、12.9%減少。
- 自然動態は2005年に減少(死亡数が出生数を上回る)に転じた。その後も減少幅は拡大し2019年は1,393人減少。
- 社会動態は昭和46年から減少(転出数が転入数を上回る)の状態が続いていたが、近年は徐々に減少幅が縮小し、2019年は261人の社会増に転じた。

図1 総人口の推移(住民基本台帳、日本人住民数値)

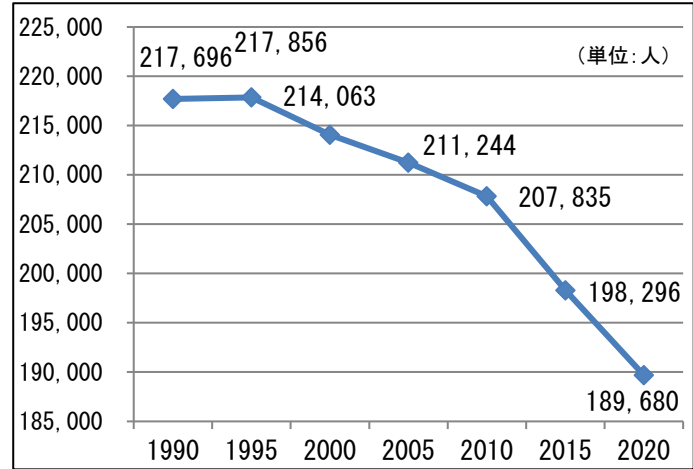
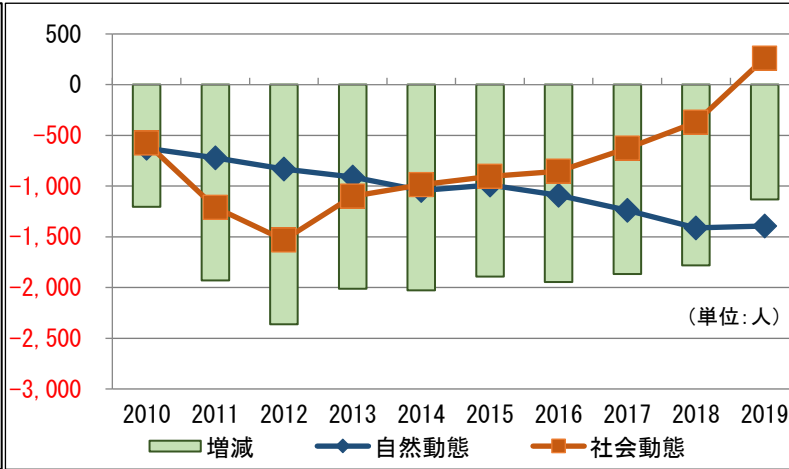


図2 自然動態・社会動態の動向(住民基本台帳、日本人住民数値)



(2) 自然動態分析

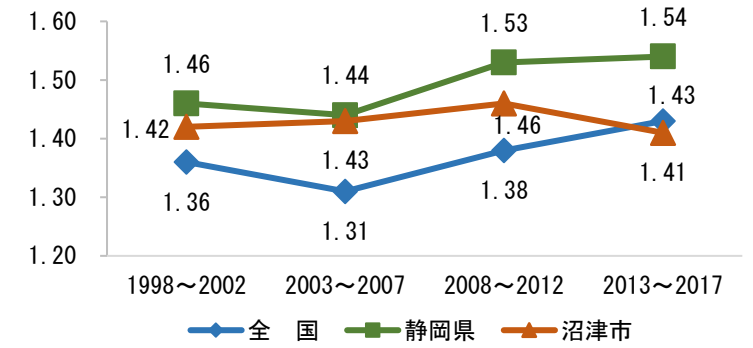
- 出生数の減少及び死亡数の増加により、自然減は拡大。合計特殊出生率は全国値及び静岡県値より低い**1.41**。

図4 出生・死亡数の推移(住民基本台帳、日本人住民数値)

西暦	出生	死亡	増減
2015	1,246	2,234	-988
2016	1,225	2,317	-1,092
2017	1,104	2,344	-1,240
2018	1,070	2,482	-1,412
2019	1,045	2,438	-1,393

(単位:人)

図5 合計特殊出生率の推移(人口動態保健所・市町村別統計)



2. 人口の将来展望

(1) 人口の長期見通しと将来展望

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計(国)では、**2060年に100,930人、2015年と比べ48.4%の人口減少**となる。
- このまま人口減少が続けば、住民の生活環境や地域経済に大きな影響を及ぼすことが予想されるため、今後、まちの活力を保つためには、可能な限り人口減少を抑えることが必要である。

(1) 社会動態分析

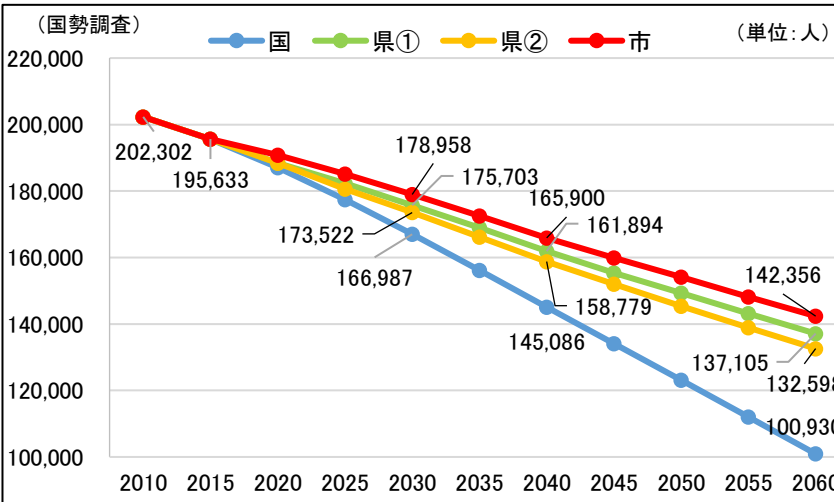
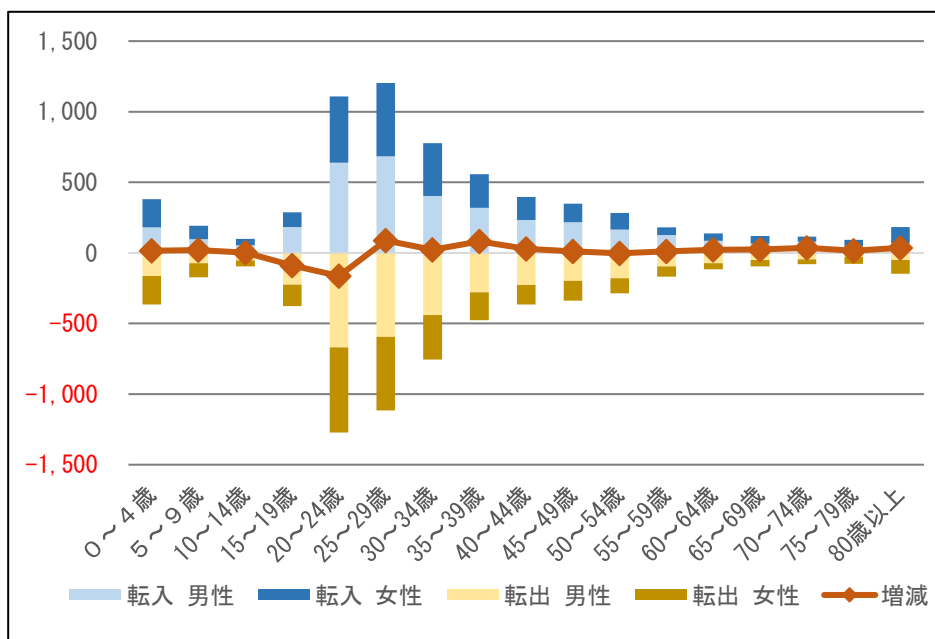
- 2019年の5歳階級年齢別の転出入は、15歳から24歳、50歳から54歳で転出超過だが、就労や結婚、子育てなどの担い手となる世代では転入超過に転じた。静岡県内の転出入は、静岡市、富士市などに対して転出超過だが、県内全体では、転入超過となった。県外の転出入は、東京都、神奈川県など首都圏へ依然として転出超過である。

図3 転出入の状況(2019年 住民基本台帳 届出日による抽出調査、日本人住民数値)

移動先	転入数	転出数	純移動数	移動先	転入数	転出数	純移動数
静岡市	353	384	-31	伊豆市	89	58	31
浜松市	158	162	-4	御殿場市	145	98	47
伊豆の国市	169	116	53	富士宮市	121	96	25
長泉町	286	272	14	函南町	106	117	-11
富士市	401	466	-65	裾野市	209	136	73
清水町	291	263	28	他市町	504	360	144
三島市	411	394	17	他道府県	1,096	1,011	85
				県内計	3,243	2,922	321
				県外計	2,901	3,197	-296
				合計	6,463	6,302	161
				その他	319	183	136

(単位:人)

年齢	転入	転出	増減
0~4歳	380	365	15
5~9歳	193	172	21
10~14歳	99	96	3
15~19歳	287	376	-89
20~24歳	1,109	1,273	-164
25~29歳	1,203	1,115	88
30~34歳	777	755	22
35~39歳	558	476	82
40~44歳	396	366	30
45~49歳	348	338	10
50~54歳	283	286	-3
55~59歳	181	169	12
60~64歳	139	117	22
65~69歳	119	95	24
70~74歳	116	79	37
75~79歳	92	77	15
80歳以上	183	147	36
計	6,463	6,302	161



(国) 国立社会保障・人口問題研究所が「日本の地域別将来推計人口」で示した推計方式に準拠し、期間を2060年まで延長して、合計特殊出生率及び社会増減(移動率)は最近の傾向が今後も続くことと仮定している。

(県) 合計特殊出生率が①2035、②2040年以降人口を長期的に一定に保てる水準の2.07となり、かつ社会動態が①2025、②2030年に±0、その後持続した場合の2つのシミュレーション。

(市) 合計特殊出生率が2025年に希望出生率1.8に達し、その後2035年までに2.07へ徐々に上昇、かつ社会動態が2020年に±0となり、その後持続した場合のシミュレーション。

◆人口の長期見通し **2060年 101,000人** (国立社会保障・人口問題研究所の推計方式に準拠し、合計特殊出生率及び社会増減(移動率)は最近の傾向が今後も続くことと仮定)

◆将来展望 **2060年 143,000人程度の人口を確保**

目標 社会移動: 均衡(2020年)、希望出生率: 1.8(2025年) → 合計特殊出生率: 2.07(2035年)

※「希望出生率」: 結婚や出産に関する国民の希望が実現した場合の出生率

(2) 目指すべき将来の方向とまちの姿

《目指すべき将来の方向》

- 沼津で働きたい、住み続けたい魅力を生み出し、転入超過を持続する
- 若い世代の雇用の場の確保と子育てへの不安を取り除き、子育てしやすい環境をつくる
- まちなか居住の推進と都市的魅力の向上を図り、定住人口の確保と交流人口の拡大を目指す

《将来のまちの姿》

都市的魅力と自分らしい生活を楽しめる“ぬまづ暮らし”の実現